Ⅴ．生き物

生き物　　①蜂　　１２８

土蔵の蜘蛛の巣を取るため竹箒を持ったとき、キイロスズメバチが飛来し右眉の上を刺された。　（平成24年10月　午後5時半頃、男性・59歳）

事故の概況

土蔵に蜘蛛の巣がかかっていたので、前々から気になっていた。当日、蜘蛛の巣をとるため、蔵の脇においてあった竹箒を取ろうとしたとき、土蔵の外壁から蜂が飛んできて右眉の上を黄色スズメバチに刺された。土蔵の外壁は、25年位前に杉板をはり、土蔵の土壁と杉板の間に蜂の巣があった。

蜂にさされた直後トラックに乗り、500m離れている薬局で薬を購入しようとした。薬局では、蜂に刺された場所を見て「病院での治療が必要です」と言われ、妻の車で20kmほど離れた医院で治療を受けた。医院に着いたのは、事故後50分程度であった。医院で点滴治療を受けた。まぶたが腫れたが見えなくなるほどではなかった。熱は出なかった。

事故原因と対策

土蔵の周りに蜂が飛んでおり、7月頃からどこかに蜂の巣があることは承知していた。ホームセンターで「すずめばち殺し」の薬剤を購入していつか散布しようと考えていたが、実行せずにいた。土蔵には育苗箱が入っている程度で、用事が無いのでほとんど出入りしたことが無かった。土蔵にはめったに行かなかったので、土蔵に巣があることに気がつかなかった。３～４日後に農協に行って蜂を退治する業者を依頼した。

業者は２週間後に来て、１時間半分程度かかって蜂を退治してくれた。

業者は、土蔵の外壁の杉板の穴から薬剤を入れて、外から戻ってきた蜂はラケットで振り落とし長靴で踏んでいた。蜂は70匹程だった。

蜘蛛の巣を払おうと、竹箒を取った時、黄色スズメバチに刺された

リンゴ園で徒長枝の選定中、熊に襲われた。

（平成24年10月　午後5時半頃、男性・59歳）

事故の概況

その年は、熊の出没情報が大変多く出されていた。本人の住む市は山からかなりの距離があり海岸に近いところであるが、市街地でも目撃情報が次々と出されていた。

当日の朝8時頃に収穫前の家の隣のりんご園で徒長枝の剪定をしていたとき、背後からの物音に気づいて振り返ると熊が近寄り目が合い、仁王立ちになって襲ってきた。当日、近くの小学校に熊が潜んでいるとの情報があり、上空にはヘリコプターが舞い、熊の捜索が行われ、熊も興奮していたようだ。

右手の木の当たりから、熊が襲ってきた。ご本人は2～3分熊と格闘、その後熊は退散した。

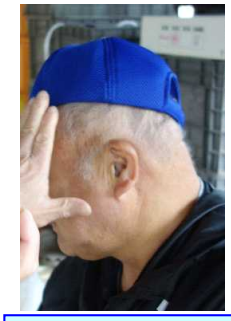
ご本人は、熊から逃げず立ち向かって２～３分間格闘を続け、その後熊が去って行った。

襲われた後、家に帰り、息子が救急車を要請、自宅から10分程度の総合病院に搬送。あっちこっちを縫ってもらった。入院９日間。熊は病気を持っている可能性があるので、点滴を打ち続けた。頭部、両前腕、耳、手指挫滅創。

事故原因と対策

とにかく、熊の出没の多い年であった。現場は、山から20kmも下ったところであったが、近くを流れる河川の川原の草むら伝いに降りて来たようだ。その後、市が河川の草刈りを徹底して、現在は市内までは降りてこなくなっている。

現在、中山間地が高齢化や離村で手入れが入らず、人里と山の境界域が不明瞭となり、熊が迷い出る環境が多くなっている。



熊に襲われた後、家に帰り救急車にて病院に搬送、頭部・顔面・耳・腕等全身各所縫合、９日間入院。熊は病気を持っている可能性があり、点滴を打ち続けた。

生き物　　③ハブ　　１３０

肥育用牛舎で、親牛を移動するためパイプ柵を移動した時、パイプの中に隠れていたハブに咬みつかれた。　（平成24年6月　8時頃、男性・44歳）

事故の概況

朝８時過ぎ分娩房から母牛を移動・搬出の際、４本の仕切りパイプ柵の内、最上段の柵を移動したところ、パイプの中に隠れていたハブが左前腕部に咬みついた。当日は、大変じめじめしていて、Ｔシャツを着ており、ハブは肌に直接咬みついた。

研修生(30歳)がすぐに病院に搬送、約15分で到着。すぐに切開し血清を注射、毒を手で絞り出してくれた。その後３週間入院。その間、左胸と背中、左腕がぽんぽんに腫れた。入院中は神経の回復のため高圧酸素療法を行った。３週間後腫れが引いて退院。当初、左の薬指が反らなかったが、現在は元に戻った。ただ、現在も左腕は力を入れると痛い。

なお、咬みついたハブは仲間５～６人が、パイプの中に潜んでいたハブを捕獲、長さは1m30ｃｍ、太さ4cm余りであった。当日の８時頃の気温は27度、湿度は夜中には湿度が90%を越え、８時頃でも80%を越えており、ハブの活動の最適期であった。

事故原因と対策

ハブは島内至る所に生息しており、これまで経験したことの無い場所に隠れていた。受傷後、パイプの穴という穴を全て空き缶などで詰めて、ハブが入り込まなくした。

ご本人は新聞で農業労災の制度があることを知り、地元の農協に言って1年半くらいして島内の農協でも農業労災を扱えるようなり、島内第1号として加入した。今回の受傷は加入２年目であり、入院中の休業補償もあり、その間の雇い入れの人たちの費用もまかなうことができ、大変助かったとのこと。この労災保険に加入していて本当に良かったと思うと同時に、専業農家は必ず加入すべきと強く思っている、とのことである。

分娩房から母牛を出そうとして、パイプ柵を移動したところ、中に隠れていたハブに咬まれた。今まで、牛舎を横切るハブは見たことがあったが、まさかパイプの中に隠れていようとは。

Ⅵ. 熱中症

熱中症　　①　　１３１

朝、庭先の水やりをしていて吐き気、おう吐、熱中症。 （平成24年7月　8時頃、女性・57歳）

事故の概況

朝7時30分ごろから庭の水やりをしていて、30分した頃めまいが出現、吐き気を催し、嘔吐した。家族が出勤した後で、ようやく息子と連絡が取れ、病院に搬送してもらった。

医師から脱水症といわれ、点滴を受けた。筋肉のけいれんはなかったが手が冷たく、しばらく安静にしていたが良くならなかったために、入院することになった。3日目からご飯が食べられるようになり。４日間の入院。診断名には脱水症、熱中症とあった。

事故原因と対策

寝るときは3時間ほどクーラーをかけ、冷気が逃げるのを防ぐために、部屋を締め切っており、クーラーの切れた後に部屋が熱くなり、脱水を起こした可能性もある。ただ、当日の水やりくらいで熱中症を発症するとは考えづらい。数日前からの体調が遠因であったと考えられる。

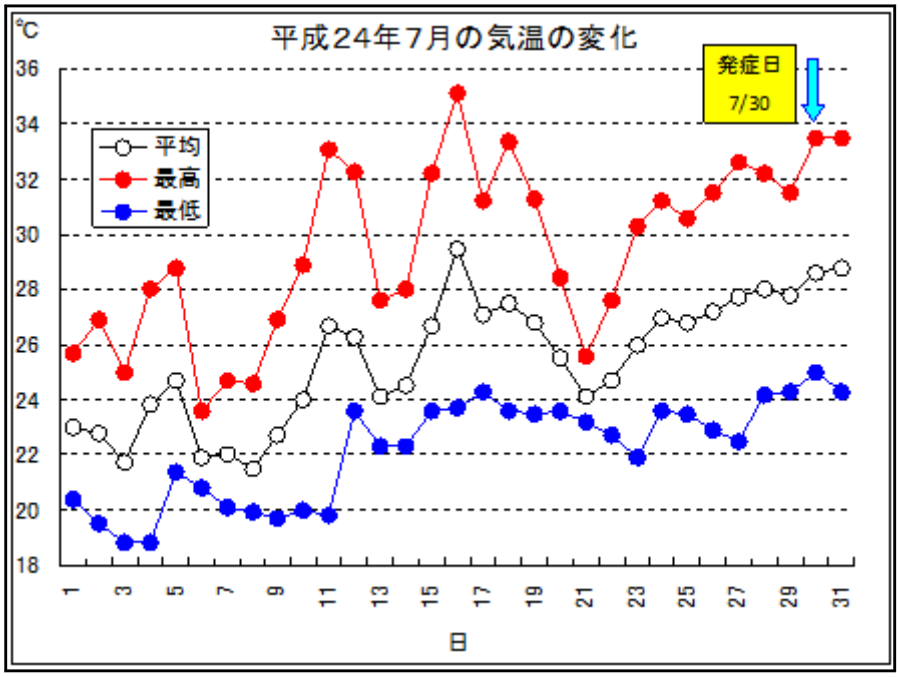
お話からいくつかの発症要因が考えられた。5年前の増築の際、寝室を以前の２階から１階に移動して、寝室が道路の照りっ返しを受けやすくなった。また、増築前はケヤキの大木が近くにあり大きな日陰を作っていた。

発症後は、部屋を閉め切らず、クーラーをかけ、水を枕元におき、こまめに飲んでいる。

今後は、部屋の外にすだれを掛け、部屋の温度を下げる工夫もしたい。

なお、気象条件は発症前の約１週間前から最高気温が５度近く上昇し33°を越えていた。

これまで、熱中症は当日の水分補給等が呼びかけられるが、それ以前からの体調管理が重要と考えられた。



熱中症　　②　　１３２

水田畦畔の草刈り中、休憩を取りつつ行っていたが、熱中症となる。

（平成24年7月128時頃、男性・77歳）

事故の概況

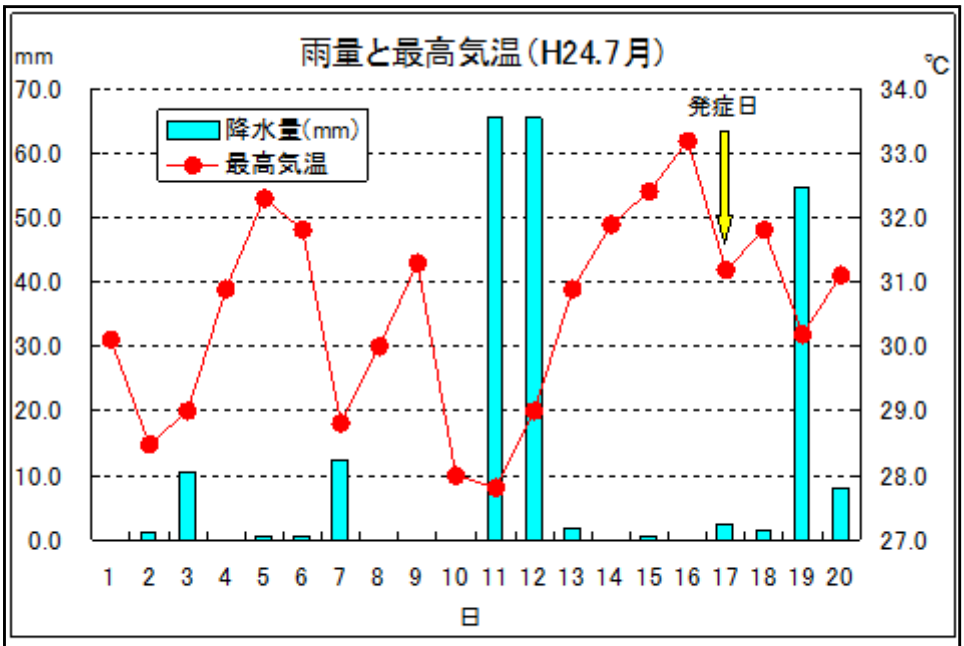
農業法人で、担当する畦畔の草刈りを仲間４人で行っていた。朝８時頃から開始し午前中で終了する予定であった。９時半頃、一定の範囲を刈り終わり、次の場所に移っていた。10時に通常のお茶休憩を30分取り、次の畦畔を刈り始め約10m位刈ったところで、汗がどっと出て目が回り、その場に座り込み約10分くらい休憩をとった。その後さらに15m位進んだが、また汗がどっと出てきた。そこで、道路際の木の木陰に行って休憩を取っていたら12時になったので、軽トラに乗って家まで戻った。

家で横になっていたら、娘が「大変」と救急車を要請、家から5分位の医院に搬送、点滴をしてもらった。３時頃には気分も良くなったので「帰る」と言ったら、１泊してくださいと入院し、翌日午後３時頃退院した。熱中症との診断であった。

事故原因と対策

その頃、連日暑い日が続いていた。その７月の作業記録によると、直前の１週間は特に作業を行っていない。また、作業着は、トラクターシューズ、麦わら帽子と肌着と長袖の作業着のみであった。睡眠は、午後８時から朝６時まで十分に取っていた。

気象条件は、当日の最高気温は前日より下がっている。が、その前１週間で約５度上昇している。つまり、発症日当日よりそれ以前の気象条件や体調管理が特に重要と考えられた。いずれにしても、熱中症は年齢的な問題、その人の体調等も考慮した作業計画を注意深く立てる必要があると考えられた。



法人の作業は、1日～9日（6日除く）間は連続、10日～16日まで無し、久しぶりに作業を行った17日に発症。11日以降最高気温が連日上昇、17日は少し下がった日